

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の  
重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

令和元年度委託事業完了報告書【総括】

都道府県名	和歌山県	番号	30
-------	------	----	----

推進地区名	協力校名	児童数
湯浅町	湯浅町立湯浅小学校	426

○ 実践研究の内容

1. 推進地域における取組

(1) 推進地域全体への取組

平成31年（令和元年）度は、「平成31（2019）年度学力向上対策」を作成し、以下①～⑤の5点について、県、市町村教育委員会及び学校が一体となり、児童生徒の確かな学力の定着を図った。

① 「チーム学校」としての組織力向上

- ・「スクールプラン」「学力向上推進プラン」に基づいた学校運営の促進

全ての学校において、学校教育目標の実現に向けた学校経営方針をまとめた「スクールプラン」の作成及び公表・実行を推進した。また、教員研修等を通じて、自校の課題及び改善策等をまとめた「学力向上推進プラン」について、学力向上に効果的な運用ができるよう指導した。

- ・地方別小中学校長研修会及び教頭研修会の実施による学習指導の改善・充実

全国学力・学習状況調査結果及び県学習到達度調査結果の分析から、学習指導の改善・充実等に向けた組織的・計画的な取組を進め、学力と学校経営力の向上を図るよう指導・支援した。

- ・義務教育9年間を見通した計画的・継続的な学習指導の促進

小中合同の研修会等を通して、小・中学校の学習指導についての理解を深めるとともに、各中学校区においての授業相互参観等に取り組むよう指導・支援した。

② 学び続ける教員の育成

- ・戦略的な学校経営力向上に向けた、教頭の県外派遣の実施

学校の課題を改善する力をもった管理職を育成するために、教頭を福井県に2週間（5名）派遣し、地方別小中学校教頭研修会等で研修成果を県内に普及することで、学校経営力の向上を図った。

- ・「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を踏まえた教員研修の実施

教育経営研修、新任教務主任研修、中堅教諭等資質向上研修、初任者研修、2年次・3年次研修といった校長及び教員のキャリア段階に応じた教員研修を実施し、授業実践力・生徒指導力・マネジメント力の向上を図った。

- ・ミドルリーダー育成のための、中堅教員の県外派遣及び長期研修員事業の実施

県内各地方で中核となる教員を、秋田県に1週間（16名）派遣し、その成果を所属校及び県教育委員会等が主催する研修会等で報告し普及した。また、和歌山県教育センター学びの丘にて1年間、長期研修員（9名）の研究に対して指導・支援するとともに、「研究報告会」やWebページにてその成果の普及を図った。

- ・若手教員の指導力向上に向けた学力定着フォローアップ事業の継続

優れた教育実践力をもつ退職教員を、学力定着に課題を抱える小・中学校（47校）に1校当たり14回程度アドバイザーとして派遣し、学校の取組や若手教員の授業力、学級経営力の向上を支援した。

### ③ 基礎学力の定着

- ・課題の大きい学校への重点的な指導・支援の実施

県教育委員会と市町村教育委員会の各指導主事がチームを組み、全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査で課題のみられた学校に対して10月から年度末まで継続的に訪問し、指導・支援を行った。

- ・市町村教育委員会と連携した、学力向上をめざした指導と支援の実施

学力向上をめざした取組を進めている小・中学校（11校）に、4月から10月末まで複数回訪問し、指導・支援を行った。

- ・『国語マスター問題集』『理科マスター問題集』の徹底活用の促進

教科書に対応した問題集を、授業・補充学習・家庭学習等で効果的かつ繰り返し活用し、読む力と書く力、問題を解決する力の確実な定着を図るよう指導・支援を行った。

- ・評価問題、評価テスト、チャレンジ確認シートの徹底活用の促進

課題改善のための評価問題と、課題改善の状況を把握するための評価テストを、それぞれ年1回配信し、児童生徒一人一人の学力の定着を図った。また、平成31年（令和元年）度までに実施した全国学力・学習状況調査問題を指導事項別に分類したチャレンジ確認シートの活用を、地方別研修会等で促した。

- ・県学習到達度調査の実施による基礎学力の点検

当該学年までに学習した基礎的・基本的な学力の定着状況を把握し、分析結果を活用して授業改善や個に応じた指導に生かすよう指導・支援を行った。

- ・補充学習の実施によるつまずき解消

『補充学習・家庭学習のための問題』を配信し、放課後や長期休業等を利用した補充学習を実施し、学習のつまずきを解消するよう指導・支援を行った。

### ④ 子供が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善

- ・「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」の徹底

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」を徹底し、学習評価を充実させるよう、学校指導訪問等を実施した。

- ・『国語授業事例集(DVD)』『理科授業事例集(DVD)』及び『動画研修パッケージ』の活用促進

教員の授業力を向上させるため、主体的・協働的な学びの実現をめざした授業づくりの指導用映像資料(DVD)や動画研修パッケージの活用を、地方別研修会等で促した。

- ・学校図書館の開館と活用、ICT活用の促進

学校図書館を常に活用できる環境を整えるとともに、学校図書館やICTの効果的な活用

を促し、問題解決的な学習の充実に取り組むよう指導・支援を行った。

・学力向上推進に係る研修会の実施による授業改善の促進

全国学力・学習状況調査結果分析を踏まえた学習指導の改善・充実につなげるため、中学校国語、数学、外国語担当者を対象とした研修会をそれぞれ実施した。また、小学校を対象とした動画研修資料を配信し、各学校における授業改善等について指導・支援を行った。

・地方別授業づくり研究会の活性化

県内全ての教員が連携して学び合える環境を整え、各地方における教員の授業力を向上させることで、児童生徒の学力向上を図った。

⑤ 基本的な生活習慣の確立と家庭学習の習慣化

・「早ね・早おき・朝ごはん」運動の推進

生き生きとした学校生活を送るため、家庭・地域と連携して、児童生徒の生活リズムの確立を促した。

・携帯電話・スマートフォン、SNS等の使用についての指導の促進

ネット指導教員養成講座を実施し、情報モラル教育、児童会・生徒会活動での取組、保護者への啓発等を充実させ、携帯電話・スマートフォン、SNS等の利用についての指導を促した。

・宿題としての予習・復習（自主学习）の徹底指導

家庭学習の手引き等を効果的に活用し、予習・復習を宿題として出すなど、学年に応じた家庭学習の取組を促し、家庭学習の習慣化を図った。

(2) 推進地区や協力校に対する指導・支援

① 和歌山県学力向上推進協議会による研究の方向の明確化

学識経験者、学校教育関係者、社会教育関係者、PTA関係者を委員とする学力向上推進協議会において、協力校と連携校を含む推進地区全体に対し、参観授業や児童生徒の実態、これまでの取組報告からみえる成果と課題について意見を聴取し、今後の研究の方向について示唆を得た。

② 推進地区・協力校への学校指導訪問

県の指導主事が協力校や連携校への定期的な学校指導訪問を行った。授業後の研究協議においては、授業内容に即して、「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」に沿った授業構成や、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて指導助言を行った。

③ 授業づくり研究会

推進地区を含む地方において「授業づくり研究会」を開催した。研究授業や、学力向上に成果を上げている県外の学校の取組に対する協議等を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりの研究推進と、教科研究のネットワーク構築支援に取り組み、教員の授業力向上を図った。

④ 各種調査等の分析支援と指導

推進地区の全国学力・学習状況調査及び県学習到達度調査等の結果データを分析し、明らかになった課題と授業改善等について指導助言を行った。

2. 推進地区における取組

(1) 学力向上に係る授業改善サイクルの取組の支援

#### ① 授業力向上に向けた支援

推進地区全体の教員の授業力向上を図ること、特に国語科を中心に主体的・対話的で深い学びを推進することを目的として、外部講師を招聘し、講演会や研修を行った。7月31日（水）には秋田大学教授の阿部昇氏、9月4日（水）及び1月28日（火）には横浜国立大学名誉教授の高木展郎氏を迎え、「読む力」を育む授業の在り方や、児童生徒同士が学び合うための資質・能力を育む授業の具現化についてご教示いただいた。

#### ② 全国学力・学習状況調査結果及び県学習到達度調査、町標準学力調査の活用

全国学力・学習状況調査の結果の分析から、児童生徒の強みと学力課題を把握し、解決に向けた具体的な取組が早期に実行できるよう支援した。また、授業改善の取組については、全国学力・学習状況調査結果、県学習到達度調査結果、町標準学力調査結果により、3サイクルで検証を行うようにした。各調査の結果については、各学年の平均正答率の推移が町全体、学校別で分かる資料を作成し、それらを踏まえながら授業改善に取り組めるよう各学校に示した。

### (2) 小中連携推進委員会や町学力向上推進委員会、小中連携授業研究会の開催による、授業改善に係る取組の共通理解の推進

推進地区の全小・中学校の校長が集まる小中連携推進委員会を定期的に行い、各学校の取組について交流する体制を継続した。また、全校の管理職及び学力向上担当者による町学力向上推進委員会を開催し、協力校の取組を中心に、各校の取組や課題、成果等について交流した。さらに小中連携授業研究会を開催し、公開授業と事後協議、推進地区や協力校の事業に係る取組についての報告を行った。事後協議では、授業における具体的な場面においてみられた成果や課題等を共有しながら協議することを通して、小・中学校で共通理解する機会とするとともに、9年間の系統性も重視した町の学力定着に効果的な授業形態や指導方法の共有化を図った。

### (3) 授業改善に係る協力校及び連携校への指導・助言体制の充実

学校指導訪問、校内授業研究等の際、協力校及び連携校に指導主事及び授業改善アドバイザーを複数回派遣し、主体的・対話的で深い学びを実現するための課題を具体的に探るとともに、推進地区の課題である「読む力」「書く力」を底上げし、思考力・判断力・表現力をより一層育成するための授業改善に取り組むことのできる体制を整えた。

### (4) 教員による先進校視察研修の実施や「授業づくりの基本」の作成等による教員の資質向上

今後、学校の中心的な役割を担う若い教員を中心に先進校視察研修を実施し、その成果を校内外に普及させた。また、授業構想、発問、教材の活用、ノートづくり、板書等、授業づくりの基礎・基本となることを全ての教員で共有するために、「湯浅の学び～授業づくりの基礎・基本～」を作成した。授業改善アドバイザーによる若年教員の指導・支援とも関連させながら、教員の資質向上を図った。

## 3. 協力校における取組

### (1) 全国学力・学習状況調査や地域独自の調査等の結果を踏まえた授業改善や指導の充実

#### ① 学力向上に係る校内研修

全教職員による全国学力・学習状況調査結果の分析を行い、課題のみられた問題の確認と指導方法の改善点についての共有を図った。また、学力調査問題を参考にした授業展開の検討を行い、学習課題や指導方法の工夫を行った。

② 「湯小授業スタンダード」の共有や板書の工夫による授業改善

県が示す『和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条』の充実」及び町が示す「湯浅の学び～授業づくりの基礎・基本～」を踏まえ、「湯小授業スタンダード」を作成し、授業スタイルなどを統一するようにした。また、授業での児童の思考の流れが確認できるよう、板書の工夫を行った。

③ ICT 機器の積極的な活用

書画カメラやタブレット等の ICT 機器やデジタル教科書を授業で積極的に使用し、児童の理解が深まるようにした。

④ 児童の実態に合わせた学習形態の工夫

ティーム・ティーチングで学力定着に課題を抱える児童への個別指導を行ったり、1学級を2グループ、3学級を4グループ編成とする少人数学習を行ったりした。

(2) 研究主題「学び合う喜びを感じる子供を育てる」をめざした授業改善や指導力の育成

① 「湯小メソッド」の共有と充実

「湯小授業スタンダード」に基づいた授業実践、「学習の基盤となる資質・能力育成表」の活用、「湯小学び合いの言葉」の活用、「湯小タイム」の取組の充実、これら4つの取組を「湯小メソッド」として全教職員で共有し、その充実に取り組んだ。

② 単元ごとのカリキュラムマネジメント

国語科を中心に、めあてや学習課題が同じになるように、学年部会で指導事項から授業づくりを進め、時間ごとにどのような資質・能力を身に付けるようにするかを協議した。

③ 外部講師の招聘

秋田大学教授の阿部昇氏と、横浜国立大学名誉教授の高木展郎氏を招聘し、カリキュラムマネジメントの進め方や新学習指導要領における授業づくりなどについてご教示いただいた。

④ 校内研修の充実

研究内容を意識して校内研修を充実させた。また、先進校視察や研究会参加による情報収集を積極的に行い、全教職員への伝達を行った。

(3) 授業力向上をめざす校内研修の実施

湯浅町授業改善アドバイザー（岡山末男氏、田中資則氏、杉谷善朗氏）を招き、授業力向上についての研修を学年ごとに行った。教材分析の方法や児童の「学び合い」を充実させるための活動など、様々な視点で授業づくりの助言をいただいた。

(4) 効果的・計画的な補充学習や家庭での生活改善、家庭学習の充実

① 朝読書タイムの取組や地域ボランティアによる読み聞かせの実施

毎朝15分間の朝読書タイムの取組や地域ボランティアによる読み聞かせ等により、読書活動の習慣化をめざした。

## ② 補充学習の実施

学力下位層の児童のため、長期休業中だけでなく、毎週の放課後学習を実施した。

## ③ Q-Uや生活アンケート等の結果の分析と事例検討会の実施

Q-Uや生活アンケート、生活行動調査の結果の分析と事例検討会を実施し、家庭教育支援員と連携して、家庭における生活習慣の見直し及び改善を推進した。

## ④ 湯浅小学校版「自主学習の手引き」の活用

昨年度、協力校が作成した「自主学習の手引き」を参考に自主学習に取り組みせ、上手に取り組んでいる児童のノートを掲示する等して、自主学習の充実を図った。

# ○ 実践研究の成果

## 1. 協力校における取組の成果

今年度の全国学力・学習状況調査と県学習到達度調査、町標準学力調査の結果において、協力校では、国語、算数とも、ほぼ全ての学年で、全国や県の平均正答率を上回った。特に年度当初に課題があった国語科の「読むこと」「書くこと」について、県学習到達度調査において、「書くこと」については、全ての学年で全国や県の平均正答率を上回った。授業づくりの際、自分の考えを書くことを大切にしたことや、授業の中で書き方の指導を行ってきたことが成果につながったと考えられる。一方、今年度は「読むこと」の指導に力を入れて研究を進めてきたが、調査や学年によっては課題がみられた。

今年度は、「児童が学び方を学ぶ」という視点により、課題解決に向けて、話し合いで深める学び合いができるように、「湯小メソッド」の取組を進めてきた。この「湯小メソッド」に研究の取組の方向性が示されており、全教員で共通して取り組んだため、取り組む内容に学年差、学級差がなく、研究を進めることができた。学び合いによる課題解決をめざした、活用や探究型の授業をくり返して実践したことで、児童の話し合い活動が徐々に活発になり、相手意識をもった話し方や聞き方に成長がみられた。また、思考しながらつなげて話し合おうとする姿にも成長がみられ、児童が自分たちだけで解決したいという意欲も向上してきた。また、来年度からの新学習指導要領全面実施に向けて、国語科の「言葉による見方・考え方」についても理解を深めることができた。これにより、言葉そのものの書き方や表し方等にこだわって考えようとする児童の姿がみられている。

## 2. 実践研究全体の成果

県が示す「平成 31（2019）年度学力向上対策」に基づき、児童生徒の確かな学力の定着を図るため取り組んでいる中、平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の教科に関する結果は表 1 の通りである。小学校は、国語・算数ともに全国平均と同程度の結果となった。中学校は、国語の結果が昨年度を下回ったが、数学・英語は全国平均と同程度の結果となった。

児童生徒質問紙調査結果（表 2）については、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、小中とも全教科で全国を上回った。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と回答した児童生徒の割合は、全国を下回ったものの改善がみられた。

表 1 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果

教科	小国					小算				
	A		B			A		B		
年度	H29	H30	H29	H30	H31	H29	H30	H29	H30	H31
県平均正答率(%)	75	72	57	55	64	79	63	46	51	66
全国平均正答率(%)	75	71	58	55	64	79	64	46	52	67
差(pt)	0	1	-1	0	0	0	-1	0	-1	-1
順位	21位	10位	21位	19位	23位	19位	21位	12位	18位	19位

  

教科	中国					中数					中英
	A		B			A		B			
年度	H29	H30	H29	H30	H31	H29	H30	H29	H30	H31	H31
県平均正答率(%)	77	75	70	59	70	65	67	48	45	59	55
全国平均正答率(%)	77	76	72	61	73	65	66	48	47	60	56
差(pt)	0	-1	-2	-2	-3	0	1	0	-2	-1	-1
順位	27位	35位	41位	39位	42位	17位	10位	17位	34位	26位	21位

表 2 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果

「授業の内容はよく分かりますか」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合											
	小学校					中学校					
	国語		算数			国語		数学			英語
	H29	H31	H29	H30	H31	H29	H31	H29	H30	H31	H31
県(%)	83.3	85.9	83.2	86.4	85.7	73.9	80.1	72.8	75.0	78.9	69.8
全国(%)	82.2	84.9	80.6	83.4	83.5	74.9	77.6	69.4	71.0	73.9	66.0
差(pt)	1.1	1.0	2.6	3.0	2.2	-1.0	2.5	3.4	4.0	5.0	3.8

  

「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合				
	小学校		中学校	
	H29	H31	H29	H31
県(%)	66.3	77.9	55.2	75.4
全国(%)	68.0	78.1	62.7	77.4
差(pt)	-1.7	-0.2	-7.5	-2.0

### 3. 取組の成果の普及

推進地域においては、令和2年1月20日に開催した「和歌山の教育を語る会」において、県や町の教育委員に対し、湯浅町教育委員会の取組について報告した。また、令和2年2月19日に開催した市町村教育委員会事務担当者等会議にて、本実践研究の成果について普及した。

推進地区においては、令和2年1月29日の小中連携授業研究会にて、推進地区や協力校の取組について普及した。また、作成した冊子「湯浅の学び～授業づくりの基礎・基本～」を推進地区の全教職員に配付した。

今後は、県内6地方で開催される授業づくり研究会等において、本事業の成果の普及を図る予定である。

## ○ 今後の課題

前述のように、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果において、「授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中とも全教科で全国を上回った。しかし、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」などの、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」に関する質問項目については、肯定的に回答した児童生徒の割合が全国に比べ低い傾向がみられた（表3）。

表3 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙に関する調査結果

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合				
	小学校		中学校	
	H30	H31	H30	H31
県(%)	75.3	75.4	70.2	72.3
全国(%)	76.7	77.7	73.8	74.8
差(pt)	-1.4	-2.3	-3.6	-2.5
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒の割合				
	小学校		中学校	
	H30	H31	H30	H31
県(%)	78.0	73.0	71.1	69.7
全国(%)	77.7	74.1	76.3	72.8
差(pt)	0.3	-1.1	-5.2	-3.1

これらの結果から、本県の児童生徒は授業について「よく分かる」と肯定的に捉えているものの、教員による授業の目標や学習課題の適切な設定、学習内容の習得状況を判断する評価の在り方等の改善は、一層進める必要がある。特に中学校国語科について、全国学力・学習状況調査の県平均正答率は全国との差が大きく、授業改善が急務である。今後も学校指導訪問等において、児童生徒が分かったつもりで終わっていないか、着実に資質・能力を身に付けることができているのか等を的確に見取ることができているか等、授業改善についての指導・支援を徹底・継続する。そのため、授業づくりの指導用映像資料（DVD）や動画研修パッケージの更なる活用を研修会等で促していく。また、校内の研究体制や補充学習の指導体制についても、県内外で学力向上に成果を上げている学校の実践を取り入れ、引き続き指導する。

さらに、国や県の施策等を効果的に活用して各種研修会の充実を図り、ミドルリーダーとなる中堅教員を育成していくことで、職場の同僚性や協働性を高め、管理職のリーダーシップのもと、全教職員が当事者意識をもって組織的に学校運営に関わるように働きかけていく。また、県が示す「学力向上プログラム」に基づいた指導改善サイクルを、各学校が確立・充実できるよう、市町村教育委員会と一体となり、学校の実情に即した具体的かつ焦点化した方法や視点を示していく。



(様式2)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の  
重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

令和元年度委託事業完了報告書【推進地区】

都道府県名	和歌山県	番号	30
-------	------	----	----

推進地区名	湯浅町
-------	-----

## ○ 推進地区として実施した取組内容

### 1. 研究課題

次の4点に重点的に取り組み、全国学力・学習状況調査及び県学習到達度調査において、所管する全ての学校の国語科の平均正答率が全国及び県の平均正答率以上となることをめざす。

- (1) 学力向上に係る授業改善サイクルの取組の支援
- (2) 小中連携推進委員会や町学力向上推進委員会、小中連携授業研究会の開催による、授業改善に係る取組の共通理解の推進
- (3) 授業改善に係る協力校及び連携校への指導・助言体制の充実
- (4) 教員による先進校視察研修の実施や「授業づくりの基本」の作成等による教員の資質向上

### 2. 研究課題への取組状況

#### (1) 学力向上に係る授業改善サイクルの取組の支援

全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査、町標準学力調査等の結果から明らかになった各学校の強みや課題、推進地区全体の共通の課題を踏まえた上で、各学校が「学力向上推進プラン」を活用しつつ、授業改善サイクルを確立し、常に授業改善を意識した取組が継続するよう指導・支援した。

#### ① 授業力向上に向けた支援

湯浅町教育委員会による学校指導訪問や校内研究授業等に、指導主事及び授業改善アドバイザーを派遣し、主体的・対話的で深い学びを実現するための課題を具体的に探るとともに、「読む力」「書く力」（特に「読む力」）を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力をより一層育成するための授業改善に取り組む体制を整えた。また、外部講師を招聘し、公開授業や講演会を行い、教員の授業力向上を図った。

- ・学校指導訪問、校内研究授業等への指導主事及び授業改善アドバイザーの複数回派遣

推進地区内の協力校及び連携校における学校指導訪問や校内研究授業等に、指導主事及び授業改善アドバイザー（国語科＝岡山末男氏・理科＝杉谷善朗氏・特別支援教育＝田中資則氏）を複数回派遣し、主体的・対話的で深い学びを実現するための課題を具体的に探るとともに、推進地区全体の課題である「読む力」「書く力」を底上げし、思考力・判断力・表現力をより一層育成するための授業改善に取り組むことのできる体制を整えた。特に協力校では、学校指

導訪問（9月4日（水）、1月28日（火））や学力向上推進協議会（12月2日（月）、2月14日（金））の研究授業や授業公開等に向け、特に国語科の授業づくりにおいて、基礎・基本から本時の指導案作成まで、授業改善アドバイザーから丁寧な指導を受けた。各教員が児童の実態を的確に把握し、児童にどんな力を付けたいのか、目標を明確にもって授業づくりを考えることができた。また、連携校の中には、一人一人の教員ごとに年に2回ずつ「授業力強化月間」を設け、授業改善アドバイザーに個人的に指導助言をいただく機会を設定する学校もあった。

#### ・外部講師招聘による研修

推進地区全体の教員の授業力向上を図ること、特に国語科を中心に主体的・対話的で深い学びを推進することを目的として、外部講師を招聘し、講演会や研修を行った。7月31日（水）には秋田大学教授の阿部昇氏を迎え、「読む力」を育む授業の在り方や教員自身による教材の読み方についてご教示いただいた。9月4日（水）及び1月28日（火）には横浜国立大学名誉教授の高木展郎氏を迎え、児童同士が学び合うための資質・能力を育む授業の具現化について、実際の授業を例に具体的に指導助言をいただくとともに、次年度から全面実施となる新学習指導要領に対応した学習評価の在り方についてご教示いただいた。こうした研修を通して、教員が授業づくりをする上で何をめざすのか、児童生徒にどんな力を付けていくのかを具体的にご教示いただいたことで、協力校をはじめ推進地区の教員にとっては、授業づくりの基礎だけでなく、授業を構成する上で強く意識すべきことが明確となり、継続的に授業改善を図っていくきっかけとなった。

#### ② 全国学力・学習状況調査結果及び県学習到達度調査、町標準学力調査の活用

全国学力・学習状況調査実施後の各学校の自校採点における分析から、児童生徒の強みと学力課題を把握し、解決に向けた具体的な取組が早期に実行できるよう支援した。4月18日（木）の全国学力・学習状況調査後の授業改善の取組については、10月16日（水）（一部学校は17日（木））実施の県学習到達度調査、さらには1月10日（金）実施の町標準学力調査により、3サイクルで検証を行うようにした。各調査の結果については、調査が行われるたびに、教育委員会で各調査における各学年の平均正答率の推移が推進地区全体、学校別で分かる資料を作成し、それらを踏まえて授業改善に取り組めるよう各学校に示した。また、年間計3サイクル（全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査、町標準学力調査）については、全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査は実施学年が限られており、町標準学力調査が小学校全学年、中学校第1～2学年で実施していることから、特定の学年だけではなく、全学年を通じて学校としての成果や課題を探ったり、教員それぞれが1年間の取組を振り返ったり、今後系統的に指導すべきことは何かを学校として明確にしたりすることができるなどの効果があった。

これらについて、9月24日（火）の町学力向上推進委員会において、推進地区全体として検証するとともに、各学校の全国学力・学習状況調査結果の分析をはじめ、授業改善の取組、学力向上推進プランについて交流した。また、学力向上の取組について協議を行い、各学校で取り組むべき課題を明確にした。

このように、各学校の学力向上の取組を支援するとともに、効果のあった取組の推進地区全体への普及を図った。

**(2) 小中連携推進委員会や町学力向上推進委員会、小中連携授業研究会の開催による、授業改善に係る取組の共通理解の推進**

小中連携推進委員会を定期的に行い、各学校の取組について交流する体制を継続した。また、全校の管理職及び学力向上担当者による町学力向上推進委員会を9月24日(火)に開催し、協力校の取組を中心に、各校の取組や課題、成果等について交流した。さらに、推進地区や協力校の取組については、1月29日(水)の小中連携授業研究会の中で報告した。各校の強みや課題、取組の方法や成果等について交流する中で、各校の方向性が定まるとともに、学校同士で学び合う機会ともなり、取組の一層の充実に寄与することができた。

小中連携授業研究会では、中学校の公開授業と事後協議を行った。事後協議では、授業における具体的な場面においてみられた成果や課題等を共有しながら協議することを通して、小・中学校で共通理解する機会とするとともに、9年間の系統性も重視した推進地区の学力定着に効果的な授業形態や指導方法の共有化を図る機会となった。

**(3) 授業改善に係る協力校及び連携校への指導・助言体制の充実**

(1)の内容とも関連するが、授業改善アドバイザーによる協力校及び連携校への指導・支援を行い、各学校の実情に応じた効果的な取組を確立させていくことをめざすとともに、学力定着に効果的な指導方法や学習教材、授業改善体制等について、小中連携推進委員会、学力向上推進委員会、小中連携授業研究会兼事業報告会を通じて推進地区全体への普及を図った。

**(4) 教員による先進校視察研修の実施や「授業づくりの基本」の作成等による教員の資質向上**

若い教員が増加してきていることから、教員の育成について取組を進めた。今後、学校の中心的な役割を担う若い教員を中心に先進校視察研修を実施し、その成果を校内外に普及させた。また、授業構想、発問、教材の活用、ノートづくり、板書等、授業づくりの基礎・基本となることを全ての教員で共有するために、「湯浅の学び～授業づくりの基礎・基本～」を検討委員会により作成した。「湯浅の学び」については、若手教員が学ぶだけではなく、中堅教員・ベテラン教員も一緒になって、その内容を充実させ、今後も授業改善について検討していくための一助となることを期待している。授業改善アドバイザーによる若年教員の指導・支援とも関連させながら取り組み、教員の資質向上を図った。

**3. 実践研究の成果の把握・検証**

全国学力・学習状況調査及び県学習到達度調査、町標準学力調査の結果分析による経年比較、設問ごとの分析等を行い、授業改善の効果を検証する。

【平成31年度全国学力・学習状況調査 国語科の平均正答率(%)】 ( )内の数字は全国との差

小学校6年	全国	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
国語	64	67 (+3)	65 (+1)	79 (+15)	85 (+21)	70 (+6)
中学校3年	全国	湯浅中				
国語	73	79 (+6)				

【県学習到達度調査 国語科の平均正答率（％）の推移】（ ）内の数字は県との差

<令和元年度小学校第4学年>

国語	和歌山県	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
小学校4年(R1)	53.0	56.8(+3.8)	55.8(+2.8)	60.0(+7.0)	<b>45.0(-8.0)</b>	63.5(+10.5)

<令和元年度小学校第5学年>

国語	和歌山県	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
小学校5年(R1)	51.9	59.1(+7.2)	59.4(+7.5)	57.5(+5.6)	65.0(+13.1)	<b>49.0(-2.9)</b>
小学校4年(H30)	52.7	61.0(+8.3)	61.5(+8.8)	60.0(+7.3)	63.0(+10.3)	54.8(+2.1)

<令和元年度小学校第6学年>

国語	和歌山県	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
小学校5年(H30)	63.7	<b>62.3(-1.4)</b>	<b>61.5(-2.2)</b>	73.3(+9.6)	70.0(+6.3)	<b>59.1(-4.6)</b>
小学校4年(H29)	60.4	63.1(+2.7)	61.5(+1.1)	78.3(+17.9)	85.0(+24.6)	<b>55.5(-4.9)</b>

<令和元年度中学校第1学年>

国語	和歌山県	湯浅中
中学校1年(R1)	49.9	<b>48.0(-1.9)</b>
※小学校6年 (H30 全国学調)	A	全国 71
	B	全国 55
小学校5年(H29)	61.9	63.1(+1.2)
小学校4年(H28)	62.3	65.1(+2.8)

<令和元年度中学校第2学年>

国語	和歌山県	湯浅中
中学校2年(R1)	49.9	52.3(+2.4)
中学校1年(H30)	53.9	58.2(+4.3)
※小学校6年 (H29 全国学調)	A	全国 75
	B	全国 58
小学校5年(H28)	59.4	62.4(+3.0)
小学校4年(H27)	59.8	66.3(+6.5)

<令和元年度中学校第3学年>

国語	和歌山県	湯浅中
中学校2年(H30)	49.9	52.3(+2.4)
中学校1年(H29)	53.9	58.2(+4.3)
※小学校6年 (H28 全国学調)	A	全国 73
	B	全国 58
小学校5年(H27)	59.4	62.4(+3.0)
小学校4年(H26)	59.8	66.3(+6.5)

【町標準学力調査 国語科の平均正答率（％）の推移】（ ）内の数字は全国との差

< 令和元年度小学校第4学年 >

国語	全国	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
小学校4年(R1)	75.4	77.9(+2.5)	77.3(+1.9)	<b>75.0(-0.4)</b>	<b>69.6(-5.8)</b>	84.6(+9.2)
小学校3年(H30)	70.0	72.3(+2.3)	71.8(+1.8)	<b>68.2(-1.8)</b>	79.6(+9.6)	76.3(+6.3)
小学校2年(H29)	82.8	84.4(+1.6)	84.9(+2.1)	<b>82.2(-0.6)</b>	<b>78.3(-4.5)</b>	<b>82.0(-0.8)</b>
小学校1年(H28)	75.4	80.8(+5.4)	81.4(+6.0)	<b>75.0(-0.4)</b>	85.0(+9.6)	79.5(+4.1)

< 令和元年度小学校第5学年 >

国語	全国	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
小学校5年(R1)	72.8	78.5(+5.7)	77.0(+4.2)	85.7(+12.9)	83.7(+10.9)	80.0(+7.2)
小学校4年(H30)	74.8	80.6(+5.8)	79.7(+4.9)	79.5(+4.7)	84.3(+9.5)	82.1(+7.3)
小学校3年(H29)	76.1	78.6(+2.5)	77.5(+1.4)	82.4(+6.3)	77.3(+1.2)	87.0(+10.9)
小学校2年(H28)	80.1	85.3(+5.2)	86.7(+6.6)	87.0(+6.9)	<b>79.9(-0.2)</b>	<b>77.6(-2.5)</b>
小学校1年(H27)	85.1	<b>84.4(-0.7)</b>	<b>83.7(-1.4)</b>	94.6(+9.5)	<b>83.7(-1.4)</b>	<b>83.9(-1.2)</b>

< 令和元年度小学校第6学年 >

国語	全国	湯浅町	湯浅小	山田小	田栖川小	田村小
小学校6年(R1)	69.2	72.3(+3.1)	70.7(+1.5)	79.8(+10.6)	83.4(+14.2)	72.6(+3.4)
小学校5年(H30)	72.0	73.3(+1.3)	<b>71.5(-0.5)</b>	81.5(+9.5)	83.2(+11.2)	74.7(+2.7)
小学校4年(H29)	74.7	76.7(+2.0)	75.4(+0.7)	84.5(+9.8)	83.9(+9.2)	77.6(+2.9)
小学校3年(H28)	66.3	72.7(+6.4)	73.1(+6.8)	85.2(+18.9)	77.8(+11.5)	<b>63.1(-3.2)</b>
小学校2年(H27)	74.5	<b>73.1(-1.4)</b>	<b>71.5(-3.0)</b>	88.0(+13.5)	78.9(+4.4)	75.8(+1.3)
小学校1年(H26)	84.8	85.3(+0.5)	86.0(+1.2)	93.5(+8.7)	<b>82.6(-2.2)</b>	<b>83.0(-1.8)</b>

< 令和元年度中学校第1学年 >

国語	全国	湯浅中
中学校1年(R1)	67.2	67.7(+0.5)
小学校6年(H30)	75.2	77.9(+2.7)
小学校5年(H29)	73.3	73.9(+0.6)
小学校4年(H28)	68.0	71.1(+3.1)
小学校3年(H27)	73.1	73.7(+0.6)
小学校2年(H26)	74.9	<b>71.7(-3.2)</b>
小学校1年(H25)	81.3	<b>79.5(-1.8)</b>

< 令和元年度中学校第2学年 >

国語	全国	湯浅中
中学校2年(R1)	68.2	68.2(±0)
中学校1年(H30)	70.2	72.9(+2.7)
小学校6年(H29)	75.9	79.0(+3.1)
小学校5年(H28)	72.2	76.7(+4.5)
小学校4年(H27)	71.4	72.7(+1.3)
小学校3年(H26)	64.2	68.6(+4.4)
小学校2年(H25)	79.0	<b>74.9(-4.1)</b>
小学校1年(H24)	80.7	84.3(+3.6)

<令和元年度中学校第3学年>

国語	全国	湯浅中
中学校2年(H30)	64.5	69.7(+5.2)
中学校1年(H29)	65.2	67.5(+2.3)
小学校6年(H28)	75.3	82.1(+6.8)
小学校5年(H27)	—	実施せず
小学校4年(H26)	70.9	77.1(+6.2)
小学校3年(H25)	70.0	75.3(+5.3)
小学校2年(H24)	82.4	<b>79.4(-3.0)</b>

全国学力・学習状況調査及び県学習到達度調査、町標準学力調査の国語科の結果分析による平均正答率の推移、特に推進地区の課題である「読むこと」「書くこと」に関わる分析等を行い、授業改善の効果を検証した。

その中で、今年度の小学校第5学年と第6学年を代表例として挙げる。

(1) 令和元年度の第5学年

① 県学習到達度調査 国語科

推進地区全体の平均正答率が県平均正答率より高い結果が得られた。観点別にみると、「読む能力」は推進地区全体で40.7%（県41.2%）とわずかに県平均正答率を下回った。「書く能力」は推進地区全体で52.9%（県46.3%）と県平均正答率を上回った。これらの結果は、田村小学校を除く3小学校で同様の傾向となった。

昨年度（第4学年時）の県学習到達度調査結果と比較すると、推進地区全体の「読む能力」は、昨年度も今年度も県平均正答率とほぼ同じであった。学校別にみると、昨年度課題が大きかった2校（山田小学校・田村小学校）において、改善がみられた。「書く能力」は、昨年度も、推進地区全体、全小学校とも県平均正答率を大きく上回っており、今年度と同様の結果であった。

② 町標準学力調査 国語科

推進地区全体で全国平均正答率より高い結果が得られた。観点別にみると、「読む能力」は推進地区全体で77.6%（全国74.7%）と全国平均正答率を上回った。「書く能力」も、73.4%（全国62.1%）と大きく全国平均正答率を上回った。また、この調査では、全小学校で国語科全体、「読む能力」、「書く能力」について全国平均正答率を上回った。

昨年度（第4学年時）の町標準学力調査結果と比較すると、昨年度「読む能力」「書く能力」ともに課題のみられた山田小学校が、今年度はどちらも全国平均正答率を大きく上回った。他の3小学校については、昨年度も「読む能力」「書く能力」ともに全国平均正答率を上回っていたが、今年度はその上回り方が大きくなった小学校が多かった。

(2) 令和元年度の第6学年

① 全国学力・学習状況調査 国語科

昨年度（第5学年時）の県学習到達度調査の国語科の結果においては、推進地区全体で課題がみられた。観点別でみると、「書く能力」では推進地区全体の平均正答率が58.0%（県46.3%）

と県平均正答率を大きく上回っていたのに対し、「読む能力」では推進地区全体の平均正答率が42.9%（県49.3%）と県平均正答率を大きく下回っていた。しかし、今年度の全国学力・学習状況調査では、推進地区全体の平均正答率が全国平均正答率を上回ったほか、協力校（湯浅小学校）をはじめ、全4小学校でも同様の結果が得られた。また、観点別にみると、推進地区全体で「読む能力」では83.7%（全国81.7%）と全国平均正答率を上回り、「書く能力」では51.9%（全国54.5%）と全国平均正答率を下回った。

## ② 町標準学力調査 国語科

昨年度（第5学年時）の町標準学力調査では、推進地区全体の平均正答率は全国を上回ったが、観点別では推進地区全体の「読む能力」が69.1%（全国70.7%）で全国平均正答率を下回り、協力校を含む2小学校で同様の傾向がみられた。推進地区全体の「書く能力」は71.7%（全国66.1%）で、全小学校でも全国平均を上回っていた。

今年度も、推進地区全体及び全小学校で全国平均正答率を上回った。また、観点別にみると、推進地区全体の「読む能力」が63.9%（全国64.7%）と全国平均正答率をやや下回り、協力校を含む2小学校で同様の傾向がみられた。推進地区全体の「書く能力」は80.9%（全国68.7%）と全国平均正答率を大きく上回り、全小学校でも同様の結果がみられた。

昨年度、今年度とも同様の傾向であったが、「読む能力」の下回り方は小さくなっており、改善がみられた。また、「書く能力」の上回り方が大きくなり、かなりの伸びがみられた。

また、小学校の他の学年や中学校においても、やはり「読む能力」に関わる課題が大きいことがうかがえた。

各校において、昨年度の「書くこと」や「学び合うこと」に、今年度は「読むこと」も加えて研究課題を掲げ、授業改善に取り組んできた。その成果が、国語科全体や「書く能力」の結果に表れた一方で、物語文で登場人物の心情を読み取ったり、説明文の内容を的確に読み取ったりする「読む能力」に課題が残るという結果となった。今後も継続して強く意識すべき明確な課題として、「読む能力」をはじめとする児童生徒に身に付けさせたい力について、更に吟味を重ねていく必要がある。

## 4. 今後の課題

3による検証等をふまえ、次年度に向けた課題と取組を以下に示す。

### （1）「読む能力」「書く能力」に重点を置いた取組の継続

上記のように、推進地区では特に「読むこと」に明確な課題がみられるため、今後も引き続き児童生徒の「読む能力」を向上させることに重点的に取り組む。

### （2）授業改善サイクルの確立に向けた体制の一層の充実

各学校の学力向上に係る授業改善サイクルの充実に向けた支援のため、この2年間で推進してきた小中連携と授業改善の方向性等の共有、指導主事の訪問や授業改善アドバイザーの派遣、外部講師招聘による研修、小中連携研修会の開催等の体制を維持する。また、「湯浅の学び」を活用し、教員が日々の授業において「読むこと」についての課題を中心に意識しながら、児童生徒にどのような力を付けるのかを明確にした授業づくりのための体制の一層の充実を図る。さらに、その後も継続的な見直しを行い、授業づくりの考え方を再構築していきける体制の充実をめ

ざす。

### (3) 基礎・基本の定着

各学力調査の結果を「基礎」と「活用」という2つの観点で見ると、校種や学校、学年によって違いはあるものの、本年度においても、「基礎」に比べて「活用」の方が、目安となる県平均正答率や全国平均正答率に比べて推進地区全体の平均正答率の上回り方が大きい傾向がみられた。「読む能力」を着実に伸ばすためにも、「基礎・基本」の定着は不可欠である。



(様式3)

「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における「学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究（小・中学校）」

令和元年度委託事業完了報告書【協力校】

都道府県名	和歌山県	番号	30
-------	------	----	----

協力校名	和歌山県湯浅町立湯浅小学校
------	---------------

○ 協力校として実施した取組内容

1. 当初の課題

毎年実施している町標準学力調査（東京書籍）と県学習到達度調査により、児童の学力の把握を系統的に行っている。次の表は、昨年度の全国学力・学習状況調査と県学習到達度調査、町標準学力調査の結果である。

【平成30年度国語科の全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査、町標準学力調査の平均正答率（%）】

全国学力・学習状況調査 (平成30年度4月)	国語A			国語B		
	本校	全国	差	本校	全国	差
第6学年	72	71	+1	54	55	-1
県学習到達度調査 (平成30年度10月)	教科全体					
	本校	県	差			
第4学年	61.5	52.7	+8.8			
第5学年	61.5	63.7	-2.2			
町標準学力調査 (平成30年度1月)	教科全体					
	本校	全国	差			
第4学年	79.7	74.8	+4.9			
第5学年	71.5	72.0	-0.5			
第6学年	77.1	75.2	+1.9			

【平成30年度算数科の全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査、町標準学力調査の平均正答率（%）】

全国学力・学習状況調査 (平成30年度4月)	算数A			算数B		
	本校	全国	差	本校	全国	差
第6学年	61	64	-3	52	52	±0
県学習到達度調査 (平成30年度10月)	教科全体					
	本校	県	差			
第4学年	72.6	64.6	+8.0			
第5学年	62.7	65.7	-3.0			
町標準学力調査 (平成30年度1月)	教科全体					
	本校	全国	差			
第4学年	74.4	72.0	+2.4			
第5学年	59.7	63.1	-3.4			
第6学年	71.5	73.1	-1.6			

平成 30 年度の第 6 学年の 4 月に実施した全国学力・学習状況調査をみると、本校の平均正答率は、全国の平均正答率より少し下回るものが多かったが、1 月に実施した町標準学力調査では、本校の平均正答率は、全国の平均正答率より少し上回っていたり、差が縮まっていたりして成果がみられた。第 4 学年、第 5 学年においても、全国の平均正答率や和歌山県の平均正答率より若干ではあるが上回っている教科もみられるようになってきている。しかし、調査問題によって、全国や県の平均正答率と比べて、上回ったり、下回ったりと調査結果が安定せず、確かな学力になっているとは言い難い結果であった。

昨年度の取組を終え、みえてきた課題を以下の 3 点と考えた。

① 児童の学ぶ姿、学力の定着に生じている学年差及び学級差

様々な学習状況調査の結果から各学年とも全国や県の平均正答率と同程度の学力が定着してきている一方で、学級ごとの結果には差がみられた。昨年度は「湯浅小学校学び合い授業 基礎・基本」シートや「聴き方・話し方」チェック表で授業スタイルや身に付けていく聴き方・話し方を全教員で共有してきたが、実際の取組や授業内容等は、それぞれの教員に任せ、実践を進めたので、児童の学ぶ姿や学力に学級差が生じたと思われる。そのため、授業スタイルを確立し、学校全体で統一した研究・取組を進める必要がある。また、児童に「学び方」を身に付けさせるために、「学習の基盤となる資質・能力」を整理していく必要がある。

② 国語科の「読むこと」領域の定着

県学習到達度調査や町標準学力調査の結果から、国語科の「読むこと」領域の平均正答率が、全国や県の平均正答率と比較すると下回っていたり、ほかの領域と比較しても低かったりした。学習活動調査の結果からも、「読むこと」についての意識に課題がみられた(下表)。国語科の「読む能力」を高める指導を進めていかなければならない。

【町標準学力調査 国語科の「読むこと」領域の各学年の平均正答率 (%)】

学年(平成 30 年度)	4 年	5 年	6 年
校内	74.5	67.1	75.2
全国	71.4	70.7	79.9

【「物語などを、主人公の気持ちを思いながら読んでいる」について肯定的に答えた各学年の児童の割合 (%)】

学年(平成 30 年度)	4 年	5 年	6 年
校内	64.3	79.3	69.8
全国	74.9	73.9	72.3

③ 基礎・基本の学力の定着と学力下位層の児童の「書くこと」の課題

各学力調査において、「基礎」と「活用」では、特に「基礎」に関する問題についての定着に課題がみられた。基礎・基本の学力向上に向けて、取組を推進し、児童の学力の定着を定期的に調査、分析しながら、取組内容を改善していくようにしなければならない。「書くこと」領域についても成果がみられているが、学力下位層の児童は書けていないという課題があった。そのため、「書くこと」の指導についても、更に徹底して分析し、指導を重ねていかなければならない。

## 2. 協力校としての取組状況

### (1) 全国学力・学習状況調査や地域独自の調査等の結果を踏まえた授業改善や指導の充実

- ① 学力向上に係る校内研修として、全教職員による全国学力・学習状況調査の実施と解答分析を行った。本校第 6 学年の調査結果から、課題のみられた問題の確認と指導方法の改善点についての共有を図った。また、学年部を中心に、学力調査問題を参考にした授業展開を取り入れる等、学習課題や指導方法の工夫を行った。
- ② 「『和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条』の充実」を踏まえて作成した「湯小授業スタンダード」を全教員で共有し、どの学級の授業でも、教員の関わり方や児童に示す授業スタイルなどを統一するようにし



- ・全国学力・学習状況調査の問題分析
- ・国語科で育成をめざす資質・能力を身に付けていく取組の共有
- ・教材分析の進め方～お手紙～
- ・「湯小学び合いの言葉」を活用した指導の仕方
- ・「言葉による見方・考え方」について考える など

これらの研修で学び合ったことを、それぞれの実際の授業づくりに生かした。

- ④ あたたかな学級風土をめざした取組として、「学級づくり参考集」(右資料)を作成し、全教員で共有して取り組んだ。また、Q-Uや、学級集団チェックリストを活用し、成果と改善点を事例検討会で検証することを通して、取組の方向性について学年間で共通理解を図った。



学級づくり参考集

学年目標や湯小学び合いの言葉、学習の基盤となる資質・能力育成表など共通した学級の掲示物に加え、学校行事の掲示を行った。

- ⑤ 外部講師を招聘し、研究を進めた。

- ・秋田大学教授 阿部昇氏

国語科教材の分析の進め方や授業展開等について、実際にグループワークで教材の分析をしながらご指導いただいた。

- ・横浜国立大学名誉教授 高木展郎氏

カリキュラムマネジメントの進め方や新学習指導要領における授業づくりについてご指導いただいた。

- ⑥ 先進校視察・研究会参加による情報収集を積極的に行い、全教職員への伝達を行った。研究会や視察先での取組を積極的に取り入れ、研究推進を図った。主な視察校、参加研究会は次のとおりである。

- ・川崎市立川崎小学校
- ・名古屋市立大宝小学校
- ・全国国語教育研究大会京都大会 京都市立大藪小学校 など

- ⑦ 学力向上推進協議会をにおいて、研究推進に向けて助言をいただいた。

- ・研究授業及び協議会の参観 (12月2日)
- ・公開授業の参観 (2月14日)

協議会委員 鳴門教育大学 教職大学院教授 前田洋一氏 他17名

### (3) 授業力向上をめざす校内研修の実施

湯浅町授業改善アドバイザー(岡山末男氏、田中資則氏、杉谷善朗氏)を招き、授業力向上についての研修を学年で行った。授業参観から、教材分析の方法や児童の「学び合い」を充実させるための活動など、様々な視点で授業づくりの助言をいただいた。

- ・岡山末男氏

10月24日(3年)、12月2日(学力向上推進協議会)、2月14日(学力向上推進協議会)

- ・田中資則氏

12月2日(学力向上推進協議会)、2月14日(学力向上推進協議会)

- ・杉谷善朗氏

10月7日(理科担当)、12月2日(学力向上推進協議会)、1月31日(高学年理科担当)、2月14日(学力向上推進協議会)

### (4) 効果的・計画的な補充学習や家庭での生活改善、家庭学習の充実

- ① 毎朝15分間の朝読書タイムの取組や地域ボランティアによる読み聞かせ等により、読書活動の習慣化をめざした。また、学校司書と協力し合い、日々の授業で役立つ本を準備してもらい、授業で活用できるようにした。

- ② 学力下位層の児童のための放課後学習や長期休業中の補充学習を実施した。1～3年生は毎週月曜日、4～6年生は毎週火曜日の放課後に、学年10～15人を対象に補充学習を行った。
- ③ 家庭における生活習慣の見直し及び改善を保護者や家庭教育支援員と連携し、推進に努めた。Q-Uや生活アンケート、生活行動調査の結果の分析と事例検討会を実施し、話し合ったことを全教員で交流した。また、分析結果を保護者に伝え、生活習慣の改善を呼びかけた。
- ④ 湯浅町作成の「家庭学習の手引き」を活用し、昨年度、湯浅小学校独自で「自主学習の手引き」を作成した。これを参考にして自主学習に取り組みせ、充実を図った。上手に自主学習に取り組んでいる児童のノートを掲示し、他の児童に紹介する実践も行った。また、復習ばかりにならないように、授業で課題を与え、家庭学習で考えを出させておくような予習にも取り組むように促した。

### 3. 取組の成果の把握・検証

【令和元年度全国学力・学習状況調査、県学習到達度調査、町標準学力調査の平均正答率（％）】

全国学力・学習状況調査 (平成31年度4月)	国語			算数		
	本校	全国	差	本校	全国	差
第6学年	65	64	+1	66	67	-1
県学習到達度調査 (令和元年度10月)	国語			算数		
	本校	県	差	本校	県	差
第4学年	55.8	53.0	+2.8	56.0	50.9	+5.1
第5学年	59.4	51.9	+7.5	57.1	54.2	+2.9
町標準学力調査 (令和元年度1月)	国語			算数		
	本校	全国	差	本校	全国	差
第4学年	77.3	75.4	+1.9	70.5	68.5	+2.0
第5学年	77.0	72.8	+4.2	62.1	60.6	+1.5
第6学年	70.7	69.2	+1.5	71.7	73.9	-2.2

今年度の全国学力・学習状況調査と県学習到達度調査、町標準学力調査の結果は、国語、算数とも、全国や県の平均正答率を上回っている学年が多かった。

年度当初に課題があった国語科の「読むこと」「書くこと」について、次の表は、今年度の県学習到達度調査と町標準学力調査の国語科「読むこと」「書くこと」領域の平均正答率を、校内と県・全国で比較したものである。

【県学習到達度調査 国語科の「読むこと」「書くこと」領域の平均正答率（％）】

読むこと	4年	5年	書くこと	4年	5年
校内	48.3	39.7	校内	45.5	51.6
県	44.5	41.2	県	39.0	46.3

【町標準学力調査 国語科の「読むこと」「書くこと」領域の平均正答率（％）】

読むこと	4年	5年	6年	書くこと	4年	5年	6年
校内	79.6	76.6	62.5	校内	63.4	70.7	79.1
全国	79.1	74.7	64.7	全国	55.9	62.1	68.7

「書くこと」については、全ての学年で全国や県の平均正答率を大きく上回っていた。授業づくりの際、自分の考えを書くことを大切にしたり、授業の中で書き方の指導を行ってきたことが成果となって表れたと考え

ている。一方、「読むこと」の指導に力を入れて研究を進めてきたが、調査や学年によっては課題がみられた。

今年度は、「児童が学び方を学ぶ」という視点により、課題解決に向けて、話し合いで深める学び合いができるように、「湯小メソッド」の取組を進めてきた。この「湯小メソッド」に研究の取組の方向性を示し、全教員で共通して取り組んだため、取り組む内容に学年差、学級差がなく、研究を進めることができた。学び合いによる課題解決をめざした、活用や探究型の授業をくり返して実践したことで、児童の話し合い活動が徐々に活発になり、相手意識をもった話し方や聞き方に成長がみられた。また、思考してつなげて話し合おうとする姿にも成長がみられ、児童が自分たちだけで解決したいという意欲も向上してきた。また、新学習指導要領の全面实施に向けて、国語科の「言葉による見方・考え方」についても理解を深めることができた。これにより、言葉そのものの書き方や表し方等にこだわって考えようとする児童の姿がみられている。

#### 4. 今後の課題

今後の課題を、以下の3点とした。

##### ① 湯小メソッドの改善及び徹底によって、児童が学び合う姿をより伸ばす

湯小メソッドを全教員で共通して取り組んできたが、より分かりやすく、活用しやすいものに改善していく必要がある。特に、学習の基盤となる資質・能力は、教員にとっても児童にとっても明瞭なものにしていく必要がある。これを踏まえて湯小メソッドを更に充実させ、継続・徹底して取り組むことで、学び合う姿を確立していかなければならないと感じている。

##### ② 国語科の「読む能力」の育成をめざす

県学習到達度調査と町標準学力調査の結果をみると、国語科の「読むこと」領域に引き続き課題がみられた。そこで、今後も、国語科の「読む能力」を育成する指導の充実について研究を進めていかなければならない。そのため、特に、「読むこと」の学習において、学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業研究を進めていく。児童の評価をどのようにするか、また、児童が自身の学びをメタ認知できるところまでを考えた授業づくりを進めていく。

##### ③ 研究授業後の協議会の充実をめざす

学力向上推進協議会で、本校の研究授業と協議会の様子を参観していただき、それらの行い方について助言をいただいた。その際、協議会は、一人一人の教員が次からの実践に役立たせていくための場になるようにしなくてはならないと指摘をいただいた。これまでも、活発な協議会に向けて、協議の視点を設け、授業参観シートを活用したり、積極的な発言を促したりするなど工夫してきた。しかし、参観した授業についての発言が多く、今後の指導実践と直接結びつくようにする必要がある。そのため、授業者のこれまでの研究実践を交流し、今後の研究の取組や方向性等について話し合った内容を研究日より等で伝達するなどして共有するようしていきたい。